

令和元年度 自己評価・学校関係者評価書

令和2年3月4日
川崎幼稚園

1 幼稚園の教育目標

- ・健康で明るい子
- ・努力と忍耐 がまん強い子
- ・自分で考え工夫してやりぬく子

2 本年度の重点課題

新・幼保連携型認定こども園教育・保育要領について、引き続き新教育・保育要領にある「3つの柱」「10の姿」や、遊びを通じて育む総合的な指導について研修し、職員間で共通理解を深め実践していく。

また、乳幼児の発達や一日の流れの連続性に配慮し、主体的に関わりたくなるような環境や、落ち着ける環境、遊び込める環境を計画的に考え、工夫する。

3 評価項目の達成及び取り組み

評価項目	結果	理由	関係者評価
保育の計画性	A	子どもの発達段階に応じた計画を立て、日々の保育、子どもの姿を振り返り、職員間で話し合いながら、実態に合わせた保育を考え取り組んできた。	A 発達段階や実態に合わせ、計画・保育がなされていてよい。毎月、避難訓練や身体測定の日を計画し、安心する。季節を感じられる活動もあり、続けて欲しいと思う。
保育の在り方	A	子どもとの温かなやりとりやスキンシップを大切に、一人一人の考えや良さを認めるようにしている。子どもの「やりたい」という気持ちを尊重し、保育している。 乳児への対応では、月齢に応じた発達段階を念頭に置きながら、個々に合った保育、丁寧な保育を心掛けている。	A 子どもの作品を見ると、子どもの「やりたい」という気持ちを尊重して保育・教育されていることがよくわかる。主体的にかかわりたくなるような環境作りがなされている保育だと思う。
教師としての資質、能力、適性等	A	守秘義務を守り、感謝の気持ちを忘れずに務めている。 保育者自身の言動が、子どもに対する影響が大きいことをよく考え、笑顔で子どもや保護者に関わるようにしている。 仕事の分担や手順を考え、職員間で協力して行っている。	A 子ども一人一人をよく見てくれている。保護者として子どものことで不安な気持ちでいた頃、朝、送って行き、先生に会った時に安心させてくれた。子どもの友達に対するよくない行動を、きちんと叱ってくれたこともよかった。 感謝の気持ちを忘れない、笑顔で関わる、という本質・心構えが、先生方の温かい雰囲気根底にあるように思う。

保護者への対応	B	園での様子は、直接、また、電話や手紙、ノートや個人面談などで連絡するようになっている。しかし、幼児の成長記録ノートの回数を減らしたことで、淋しく感じる、様子がわかりにくくなったなどの声があった。一方で、口頭で様子を聞けるようになり子どものことがより分かり助かる、との意見もあった。また、10月からの保育料無償化に関することで、迅速かつ正確な情報を届けられず、一部の保護者を混乱させてしまった。わかりやすい伝え方をしていくよう心掛けたい。	B 卒園児の保護者としては、小学校では、先生によって違うが、コメントがなく印だけで、親からも特に書かず、それが当たり前になっていくので、幼稚園でのノートが宝物のように感じる。 家では見ることでできない我が子の様子を、他の視点から見て教えてもらえることがよかった。 保護者は、先生からの言葉だけだが、先生は全員分だから、読むだけでも大変なことと思う。 行事の運営についての連絡は、天気によって難しいと思うが、早めの判断をお願いしたい。
地域の自然や地域との関わり	A	散歩等で園周辺を歩き、四季折々の自然を感じることができる。また、地域の方と挨拶を交わしたり会話を楽しんだりしながら関わりを持てるようになっている。	A 散歩に行った時、地域の方々のよい関係ができていると、災害発生時にも地域との連携が取りやすくなるのでよいと思う。 幼児クラスになると毎日のように行っていた散歩が減るので、もう少し行けるとよいと思う。
研修と研究	A	エピソードの園内研修では、10の姿をベースに研修し学ぶことができた。子ども一人一人を見つめ、幼児理解について職員間で共有することができる機会ともなっている。 感染症予防研修会に参加し、報告することで、職員全員が情報を得たり、対策・対応の大切さを学んだりすることができた。	A 先生方の研修が、幼児の理解や日々の保育につながっていることはよいと思う。情報交換をして共有していることもよいと思う。 これから入る若い先生方にも、教育・保育要領を熟読してほしいと思う。
地域における子育て支援	B	子育て支援センターや一時預かり保育の利用者が、温かい雰囲気を感じ、親しみを持てるように、明るい対応を心掛けている。一時預かりでは申込が集中し、断ることや日数を調整することがあった。丁寧な対応を心掛けているが、申し訳なく思う。	B 川崎幼稚園の支援センターは、明るくていいところなので、もっと遊びに来てくれるといいと思う。 一時預かり保育は、申し込みが集中することは対応できかねることなので、厳しいとも思う。丁寧な対応を続けて欲しい。

結果の表示方法

A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが、成果が十分でない

D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

昨年に引き続き今年も私立幼稚園協会の子育てカウンセラーの地区担当園で、個々への対応や見方などについての研修があり、関わり方などについて学ぶことができた。また、園内研修でもエピソード記録を持ち寄り、職員間で話し合うことで、子どもの姿を見つめ、幼児理解を深めること、共有することができ、研修で得た関わり方を日々の保育の中で実践することができている。来年度の計画にも反映させ、実践していく。

主体的に関わりたくなるような環境を、年齢や場所、時間を考えながら、整えたり変えたりしてきた。1日の流れの中で、生活の面でも遊びの面でも、自ら「やろう」とする気持ちが芽生え、行動できるように工夫した。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育の見える化	保護者には、日々の保育、子どもの変化、成長を伝えることができ、職員間では、保育の振り返りや情報の共有ができるように取り組む。
環境づくり	発達や一日の流れの連続性に配慮し、教育・保育を行う為の環境構成について工夫していく。 自然な形で異年齢（幼児乳児）の関わりができるような工夫をする。

6 学校関係者評価委員会

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が平成26年4月に公示され、平成29年3月には新教育・保育要領が公示されるという目まぐるしい動きの中で、本園では常に新要領の精神を取り入れ、本質に沿った保育が展開されていることが、本日の学校関係者評価委員会で明らかになりました。

本日の委員会で論議された、保育の計画性、保育の在り方、保護者に対する子育て支援、地域の自然や地域との関わり等の各項目において、新要領で示されている3つの柱と10の姿を根底にした活動がなされていました。

今後とも、現在実施されている、笑顔と感謝する気持ちを大切に、新要領の研究を深め、なお一層、保護者、地域との連携を深めていただくようお願いしたい。